

第 17 回 一造会大賞



「CLA 賞、一造会大賞 合同表彰式・受賞者発表会」

Online (Zoom)

(配信会場：東京都港区高輪 4-10-8 ビジョンセンター品川 305 会議室)

令和 4 年 10 月 14 日

全国 1 級造園施工管理技士の会 (一造会)

第17回「一造会大賞」について

一造会大賞の趣旨

一造会大賞は、一造会会員をはじめ、造園施工管理技術者の技術や努力を表彰・認定するものです。多様な造園の設計、施工、管理、技術開発などの分野や、対象（現場、物件）の大小も問いません。造園技術者の工夫や努力、造園技術者の取り組みとその成果を顕彰することが大きな目的です。

スケジュール

申請受付

5月20日～7月29日

作品締切 ～8月19日

選考委員会

9月9日

一造会大賞選考委員（◎委員長、○副委員長）

◎藤井 英二郎（千葉大学名誉教授） / ○金子 隆行（一造会副会長）
町田 誠（（一財）公園財団常務理事、横浜市立大学大学院都市社会文化研究科客員教授）
石井ちはる（（一社）ランドスケープコンサルタンツ協会 理事、技術委員長）
韓 圭希（（公財）都市緑化機構嘱託、URBANICS 共同代表、釜山大学・鮮文大学客員教授）
福成 敬三（一造会フェロー） / 松本 朗（一造会常任相談役）
高橋 正敏（一造会関西支部） / 石出慎一郎（一造会東北支部）

このほか、支部選考委員の方々のご協力もいただいています。

2022年 第17回一造会大賞

【一造会大賞（最優秀賞）】

**地域との繋がりを目指した取り組みと
施工にあたる課題対策と小さな工夫**
武内 将司（株石勝エクステリア）

【優秀賞】

公園を中心に広がる地域連携 ～町田薬師池公園四季彩の杜 西園～
額谷 悠夏、園田 理恵、林 康司、佐藤 寛恵、小林 ひかる、山下 得男
（株富士植木（NEST Machida 共同事業体代表企業））

**富山県空港スポーツ緑地における障害者福祉の取り組み
～公園が共生社会のまちづくりを担う～**
長谷川 暁信、神田 津希、野上 一志（株野上緑化）

【特別賞】

国営公園内日本庭園改修工事における伝統技術の活用と環境配慮への取り組み
北村 優衣、大久保 導和、榎野 遼介、齋藤 桃、阿部 庸介（西武造園株）

浜離宮恩賜庭園における江戸時代の庭園景色復元に向けた修景整備工事
渡邊 美央、益野 洋一、山中 啓史、加藤 岳大、磯部 紗江（株富士植木）

吾妻の大自然で、一年間に及ぶ森林復旧作業
堀金 哲也、小川 雄一、杉村 泰、阿部 晃治、晝間 晴喜（株山梅）

1 選考委員長総評

ハード・ソフト両面で快適性と美しさを具体化できる技術を

藤井英二郎 千葉大学名誉教授、一造会顧問

第17回一造会大賞に多くの方々が応募して下さり、ありがとうございました。選考は、東北支部と関西支部それぞれの審査委員の評価を集約した支部代表選考委員と本部選考委員7人の評価をもとに審議し、大賞1点、優秀賞2点、特別賞3点となりました。

大賞の「地域との繋がりを目指した取り組みと施工課題対策と工夫」は、民間企業の研修・宿泊施設の庭園設計・施工で流れ・池や植栽の構成・施工技術が高く評価されました。設計・施工一体が優れた空間整備に重要であることを再確認できました。

優秀賞の「公園を中心に広がる地域連携 - 町田薬師池公園四季彩の杜・西園」は地元の飲食・コンベンション運営企業と連携した指定管理における市民と連携したイベント運営が、「富山県空港スポーツ緑地における障害者福祉の取り組み」は障害者による緑地管理とイベント参加等によって緑地福祉を展開したことが、それぞれ高く評価されました。

特別賞の「国営公園内日本庭園改修工事における伝統技術活用と環境配慮」は庭園建築の荒木田土間や聚楽壁の再施工、竹繊維舗装等の施工管理が、「浜離宮恩賜庭園における江戸時代の庭園景色復元に向けた修景整備」は発掘や委員会での検討にもとづく植栽復元過程が、「吾妻の大自然で1年間に及ぶ森林復旧作業」は調査に基づく植栽基盤改良や苗木準備と環境順化等の着実な緑化技術が、それぞれ評価されました。

造園技術は形容詞やはやりのカタカナではなく具体的・客観的に説明しなければなりません。また、対象地の周囲に遮蔽して景観が改善できる事物があれば、敷地内で遮蔽する工夫をしなければなりません。

公園の指定管理が増え経営的判断も重要ではあるが、利用者の行動を読み解きながらハード・ソフト両面で快適性と美しさを具体化できる技術が求められます。

2 選考委員講評

日頃の成果を発信しましょう！

金子 隆行 一造会 副会長（一造会大賞審査委員会 副委員長）、(株)ライフ計画事務所

一造会大賞の各賞受賞者の皆さま、おめでとうございます。

選考会は9月9日(金)に藤井英二郎委員長（千葉大学名誉教授）以下昨年度と同様な選考委員で開催されました。

特に東北・北海道支部の石出支部長にもご出席いただき、色々ご意見等をいただきました。委員の方々からは「今年の応募作品はだいぶレベルが上がっている」とのお言葉をいただきました。また、施工現場と指定管理等の管理運営についての応募作品も多く出していただきました。

応募作品は13点で、選考会は2時間ほどで、会議室とwebの併用で開催しました。

欠席の方が3名おられましたが、事前に評価をいただいております、出席の選考委員の方々ほぼ同じようなご意見だったため、比較的高得点の作品と選考委員が高得点をつけた作品に絞り込み、その中から最高点を大賞とさせていただきます。その他、僅差の作品を優秀賞、特別賞とさせていただきます。

昨年より、CLA賞との合同表彰式・発表会に公益社団法人日本造園学会にご後援をいただいておりますが、造園学会の「技術報告集」が「ランドスケープ技術報告集」とスタイルを変えることとなりました。

委員会の審査はありますが、今までのような査読はなくなり、審査後はカラー版で学会ホームページに公開され、J-STAGE に登録され公開されます。投稿期間も年 3 回になりました。原稿は未発表のものとされていますが、その後の実施結果の加筆や進展が認められるものは投稿可能です。今回の対象者も含め、会員皆様是非ご検討ください。詳しくは学会ホームページをご覧ください。

「第 2 回 すてきな造園空間 施工管理技術 作品コンクール」をはじめ、色々な場面で皆様の活躍を発表する機会があります。今後も是非、日頃の成果を発信しましょう！

新しい価値創出、社会課題解決に向かう造園・ランドスケープにエールを送りたい

町田 誠（（一財）公園財団常務理事、横浜市立大学大学院都市社会文化研究科客員教授）

一造会大賞、優秀賞、特別賞を受賞された 6 作品の皆様、受賞誠におめでとうございます。心よりお慶び申し上げます。

受賞されたみなさまの個々の作品についてはコメント控えますが、キーワードを並べてみると、「クリエイティブなオペレーション」「社会福祉への向き合い方」「ミティゲーションー自然再生技術ー」「風景復元ー積極的な植物のコントローラー」「デジタルトランスフォーメーション」等が浮かび上がってくるように思います。

少々乱暴に纏めてしまうと「これまであまりやってこなかったことにチャレンジして、あるいはそれらをフィーチャリングして、新しい価値創出、社会課題解決に向かっていく」ということなのだと思います。そうしたことが社会のすべての分野に求められているというのが今の時代の読み方だ、ということなのではないかという問題提起です。

公園や庭園、緑を基調としたオープンスペースが果たしてきた機能は全方位的で、全ての世代、人々にとって等しく有用なものであると思います。しかし、社会はどんどん変わっていく。例えば公園という社会資本のメインユーザーを「お父（母）さん、公園行こうよ」と言われる世代までと仮定するなら、それらの世代の人口（実数）は 1975 年のピーク 7,300 万人から現在 4,800 万人に減少している。同期間に 65 歳以上の人口は 890 万人から 3,600 万人にも増加している。たった一つの「年齢階層別人口構成」の変化を見るだけでも、これだけ日本の経済社会は変化していて、まだしばらく変化は続きます。

少子高齢化という見慣れた言葉からでは感じられないリアリティをもって、これから私たちは何を為すべきか、ということを考えていかなくてはいけないと思っています。「これまでやってきたことじゃないこと」をもっと強く意識したり、本質的根源的（プリミティブ）な人間の欲求にもっと近づいていくことなど、色々なことに思いを巡らせて行きたいと思います。みんなで頑張っていきましょう。

年々資料の表現が向上、課題の検討経緯や対応策の選定理由なども整理した作品が多数に

石井ちはる（（一社）ランドスケープコンサルタンツ協会 理事、技術委員長）

第 17 回「一造会大賞」各賞を受賞された皆様、おめでとうございます。応募された皆様、ありがとうございました。

年々応募作品の傾向が多様化しており、今回は、公園再整備、団地環境整備、日本庭園改修、研修施設の庭園整備、斜面地保全、森林整備、DX 活用、参加型育成管理、公園等の管理運営というように多分野にわたる 13 作品の応募があり、その中でも管理運営に関する作品の割合が増えていることが特徴であるといえます。

受賞作品のうち、「地域との繋がりを目指した取り組みと施工にあたる課題対策と小さな工夫」は、奈良市の民

間研修施設の植栽空間において、奈良らしさの表現と曲水、万葉植物、遺構といった知見に基づくデザインと施工を実施し、社会的動向であるグリーンインフラの導入やドローン技術による測量と竣工図作成など、総合力に優れた、まさに大賞にふさわしい作品でした。

その他、特に印象に残った作品は、優秀賞の「富山県空港スポーツ緑地における障害者福祉の取り組み」です。近年、障がい者が公園緑地の管理に関わることが注目されています。この作品が広く発信されることで、各地で障がい者や障がいを抱えた児童が活躍する場が増えることを期待しています。

経年で応募作品を拝見していますが、年々資料の表現が向上しており、今回は課題に対する検討経緯や対応策の選定理由などが整理された、わかりやすい作品が多く見られました。一方で、作品の対象範囲や応募者の役割などが不明であるなど、説明不足で惜しい作品もあり、次回に期待したいと思います。

一造会大賞の受賞者発表会は、（一社）ランドスケープコンサルタンツ協会の CLA 賞と合同で開催されます。幅広い分野の発表を聞くことができる貴重な機会ですので、ぜひ参考にしてください。

みなさんの職域、造園会社の社会的使命をもっと広く捉え、新しい分野へ

韓 圭希（公財）都市緑化機構嘱託、URBANICS 共同代表、釜山大学・鮮文大学客員教授

受賞者のみなさま、おめでとうございます。

一造会大賞は 17 回目、私が審査に関わるのも 9 回目になりました。造園施工管理技士のみなさんの職域、造園会社の社会的使命をもっと広く捉えて積極的に新しい分野に関わっていただきたいという思いを抱きつつ審査や評価をしてきました。応募作にも造園会社の仕事とは思えないような作品や現場が毎年いくつか混じるようになりまして、嬉しく思います。

優秀賞となった「町田薬師池公園四季彩の杜 西園」、選外となりましたが「東京ポートシティ竹芝オフィスタワー」での役割を造園会社が果たすことができる、あるいは一造会の会員のみなさんがこういった取り組みをこなすことができるようになるなら、これは素晴らしいことではないでしょうか。

こういった思いとは別に、今回は「浜離宮恩賜庭園における江戸時代の庭園景色復元」に感心いたしました。庭園というものは長い歴史を経るなかで時代の価値観を反映して幾度も手を入れられて変貌していくものです。そんな中、こんにちの価値観とは相容れない作業もあったようですが有識者の方々をサポートしつつ竣工に辿り着いた様子がよく伝わってきました。実際に目にするのが楽しみです。

大賞となった奈良の研修施設は稀にみる力作かと思います。ぜひ見学したいものです。その他の応募資料も一造会のみなさんの実力の高さを再認識させていただきました。次回もより多くの応募、ご意見を頂ければと思っています。ありがとうございました。

造園技術者の視点、考え方に自信を持ってますますのご活躍を！

福成 敬三 一造会フェロー、フォーサイト緑地環境研究所 代表

第 17 回一造会大賞、優秀賞、特別賞を受賞された皆様、本当におめでとうございます。そしてすばらしい作品を多数応募して下さった皆様に敬意を表します。

今回の作品群についても資料作成のレベルがさらに向上したかと思います。17 回目ということで、このような体裁にまとめていくことがいいのだというお手本や講評の蓄積が正に功を奏したのであらうと思います。逆にどれ

もが同じように見えてしまい、表現の個性が見えなくなっているかもなどと思わず過大な期待をしてしまうほどでした。

内容的にも評価に大きな差を付けるのは私にとっては困難でした。選考委員の皆様の講評等によって様々なコメントがなされていると思います。私は選考委員会でのエピソードをご披露したいと思います。一つは選外の作品についてどこに問題があったのかをきちんとお伝えして行こうという方針が確定したことです。落選された方たちは、せっかく時間を割いて応募したのにという思いが残ると思いますし、一般的には落選の通知さえ届かない場合が多いかと思います。短いコメントに過ぎないかも知れませんが、こういうところがうまく説明できていなかったのか、また応募しよう、私も応募してみようという気持ちに繋がって下さればと思います。

また余談かも知れませんが、評価委員の方達は作品を大切に汲み取りながら様々な視点から見解を述べられるわけですが、今さらのお話をさせていただきます。藤井委員長の造園に対する思い入れのすごいこと、応募された皆様に造園技術者の視点にもっと自信を持って仕事をしてほしいという気持ちがひしひしと伝わってくる委員会でした。

私事ですが、前回第 16 回の講評に選考委員を退任したいと書きながら再登場してしまいました。長年あまりの体調等の悪さにご迷惑をおかけしてはと考えたからなのですが、ひょっとしたらと自ら専門外来を訪ねたところ「重症」との診断で、治療器具を着け始めてから体調が少しずつ回復に向かっているので選考委員を受諾させていただきました。

もっともっと多くの地域からのエントリーをお待ちします

松本 朗 一造会常任相談役、(株)富士植木 取締役

第 17 回一造会大賞の選考を行わせていただきました。

ますます「図面通りに施工する」という事より「土地や風景のポテンシャルを活かす」というより造園的な作品や、時代を象徴するような「障害者福祉の取り組み」など従来我々施工管理技士が求められてきた以外の要素がクローズアップされ、評価されるようになってきたと感じます。

自分が思うにより造園らしくなっていて、公共工事において造園のスタートが土木だった事を考えると、その差異がより顕著となっていると思います。

一方「造園土木」と言われる分野も大切で、この部分をおおろそかにしてしまってはいけません。その意味においても我々技術者がより多くの事を学び、社会に還元しなければなりません。

今回富山からのエントリーがありましたが、もっともっと多くの地域からのエントリーをお待ちします。

エントリー数も今回 13 件 まだまだ少ないです。

もっと自信をもってご自身の仕事をアピールしませんか？

「造園楽し！一造会！！」ますます造園を楽しみましょう。

大賞をはじめ、各種受賞作品とも“課題に対する取り組み”を評価

高橋 正敏 一造会幹事 関西支部、関西造園土木(株) 常務取締役

第 17 回一造会大賞に応募された皆様、ありがとうございました。一造会大賞・優秀賞・特別賞を受賞された皆様、おめでとうございます。今回も関西支部から選考委員として審査に携わらせていただきました。

応募作品を評価基準に照らし合わせ、作品選考を行うのは毎回大変な作業で何度か読み返しながら、応募者され

た方の思いを推測しながら審査させて頂きました。

今回の一造会大賞、「地域との繋がりを目指した取り組みと施工にあたる課題対策と小さな工夫」は、3つのゾーンに分け、共通点としては、奈良らしさの演出と多数の人が関わるプロジェクトでのイメージの共有が課題ではなかったかと思います。

水系エリアは、完成形のイメージを共有するためにモックアップを作成されたことが重要なポイントであり、奈良時代の「曲水」の底石の見え方もモックアップを作成することで、完成形のイメージを視覚化された事での課題解決、多数の人が関わるプロジェクトになればなるほど考えられる共有に対するリスクを排除するための、イメージのすり合わせ等を行った事。奈良らしさを演出する事の思いが明確な分、課題に対しても妥協せず1つ1つ検討を重ね、最善の方法を検討され、施工中も、「曲水」の水量、管理道、流れ部の外部施設との遮断等、その他のエリアも細部まで臨機応変に対応されていたと思いました。

結果、大変困難な現場も目的を達成して完成させた事が、造園技術者としても高く評価された点だと思います。

その他の各種受賞作品も課題に対する取り組みが評価されたと思います。忙しい業務の中、応募いただいた皆様ほんとうにありがとうございました。

「こんなこともやってるの」「頑張っているなあ、楽しそうだな」という作品が増えることを期待

石出慎一郎 一造会幹事 東北・北海道支部、東洋緑化(株) 代表取締役

受賞された方々おめでとうございます。今回は13点の応募があり、内訳は造園工事9件、管理業務2件、その他2件のジャンルとなっていました。

本来は造園工事が多くて当たり前ですが、工事そのものが官庁民間含めて減少しており、特に地方は物件自体が無いというのが現状です。

逆に、造園業の領域は年々広がっており求められることも変わってきています。そんな実情を踏まえて、管理業務や、指定管理やPFI事業、地域・社会貢献、街づくりなどの事例発表があると時代にマッチした造園の世界になると思います。

昨今の応募全体に感じるのですが、1作品の全体を説明する内容できれいに纏まってしまって特徴が見えてこない。もっと特筆する工夫や努力した内容に絞って深みのある発表なり、失敗したようなことも書くことで苦労が見えると思います。

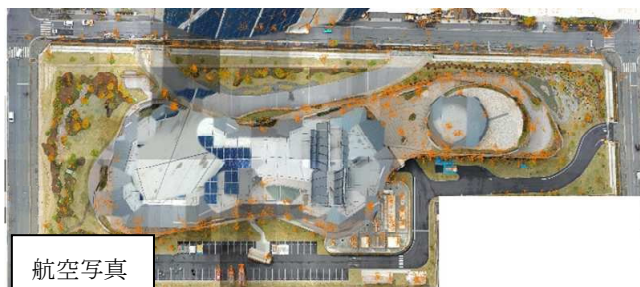
今後は単に事例として発表するに留まらず、一造会・業界に示すもの、地方ならではのものや地道な活動など自社内だけでなく、おおいに陽の目を浴びさせて欲しいものです。

「こんなこともやってるの」、「頑張っているなあ、楽しそうだな」という作品が増えることを期待しています。

また、来春の都市緑化仙台フェアにもいらして日本一の街路樹もぜひ堪能してください。

1. 工事概要

本工事は奈良県奈良市で計画された某企業の研修施設であり、人材育成の場および関連企業及び地域交流を目的とし宿泊施設も兼ねた施設である。当社は植栽計画の設計協力と植栽工事を請負い、施設利用者に高品質な庭園による癒し・休息を提供できる空間造りを目指した。工期の余裕がなく、建築及び外構工事業者と調整及び工夫を重ね工事を行った。



航空写真

2. 奈良らしさと繋がり

当施設の植栽計画として「奈良らしさ」を演出する為に万葉集に登場する植物「万葉植物」を使用し計画され、3つにゾーニングし計画を行った。①北側 水系エリア ②東側 エントランスエリア ③南側 万葉の森エリア

① 水系エリア

視点場からの目線の高さに滝口が見えるように配置し、滝口からは「曲水」と「ながれ」に分流し手前の池に落ちるように計画され、特に「曲水」は平城京内に残る日本庭園の祖とも言われる「東院庭園」の曲水を模して造り、底石のサイズ感や組み方はモックアップを作成し検討を重ね施工した。「曲水」は実際に曲水宴が可能な調整を行い、外周は住宅地遮蔽を目的とし高木を配植した。



池底から滝口のGLまで3m程度高低差があり、滝口背面は急傾斜の為、景石を配置し地形の緩和を図った。

② 万葉の森エリア

建物内は食堂や休憩スペースが設けられ、そこから多くの人が観賞する空間である。築山には高中木を配植し、デザイン性を担った目隠し植栽として配置を行った。また、単幹を2本以上組み合わせる株立ちに見せる配置をし、高額な樹木を使用しないで済むように、コスト面においても工夫を行

った。また、1本辺りの樹木の重量や大きさを下げる事で中型の移動式クレーンでの施工や、0.12BH程度で施工できるので、施工性が上がり工期短縮にもつながった。



単幹の組み合わせ



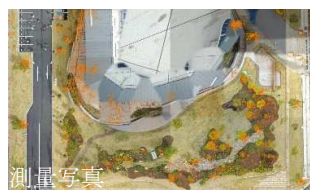
枯山水

3. 奈良の土質

一部のエリアで樹木の生育不良が散見され枯死するものもあり、原因の調査を行った。長谷川式簡易透水試験を行い調査を行った結果、枯死箇所付近では不良の判定であった。土質の透水性が良すぎる為に保水性向上の改良を行ったが、一部のエリアで透水性が実際は悪い箇所が散見された。対策として高中木を高植になるように配植し直し、再配置した高木の周りも築山造形し高植をデザインの中に組み込む仕上げを行い、窪地では根鉢底に暗渠を設け排水改善を行った。

4. ドローンを用いた竣工図の作成

現地の雰囲気やニュアンス等により築山造形は現地で細部まで調整を行ったため、竣工図の作成において出来高測量の大きな労務が想定された。そのため、ドローンを用いて竣工図作成を行い変更修正を容易に行うことができた。



測量写真



測量図化

5. 竣工を経て

施工を行っているとき計画段階では想定しきれなかった地域特有の課題や問題点が散見される事がある。そういった問題や課題は多くの現場で日々発生し、各々がその問題に対し真摯に向き合って技術や知識が積み重なって今日の造園技術が成り立っている。不要な事は省略化し、品質向上の為に必要な「手間を掛ける」事を惜しまず、人々の感性に訴えかける事が造園の職能ではないのかと考える。その結果、限られた予算・時間の中で地域や歴史、技術等、時代に順応した創意工夫を加えながら造園という職能を少しでも発展できたらと考える。

1. はじめに

町田薬師池公園四季彩の杜西園（以下、西園）は、町田市北部にある四季彩の杜エリアの玄関口として、2020 年 4 月にオープンしました。四季彩の杜エリアには、薬師池公園・えびね苑・りす園など計 9 施設が点在しています。

当社が代表企業を務める NEST Machida は、地元飲食企業とコンベンション運営企業の 3 社による共同事業体で、2020 年より西園の指定管理者を担っています。



に関わっていただいた方に加え、新たに地域で活動されている方々が加わりました。また、地域に住んでいる大学生や主婦の方が畑のインターンとして活躍し、収穫体験イベントなどの開催が頻繁に行われています。更に、初年度から開催をしている市民講師の講座もほぼ毎日開催している状態になりました。2020 年 8 月、たった 3 つの講座から始まりましたが、2021 年では 268 講座、延べ 2358 人の方が参加されるまでになりました。



これまでに市民と開催したイベントの様子

2. 地域とつくるイベントの開催

初年度の 2020 年は新型コロナウイルス感染症拡大のため、地域へのアプローチが難しい状況でしたが、市民講師による講座がきっかけになり、地域を巻き込んだイベントの開催へ繋がっていききました。

2021 年の初め、市民と指定管理者が一緒につくる大型イベントを計画し、地元の農家、アトリエ主催者、大学、文化系財団、酒屋、地元店舗など計 6 団体が実行委員として参画しました。約 5 か月の準備期間を経て、2021 年 10 月 30 日～11 月 14 日でパークミュージアム 894(やくし)として、西園全体をミュージアムに見立てたイベントを開催しました。期間中の延べ来園者人数は、53,847 人。地域のことをよく知っていて西園が好きな実行委員の企画だったことで、西園らしいイベントになり盛況に終わりました。

3. 繋がっていく輪

これまでの取り組みを通して、今まで来園者としてお客様の立場だった市民の方がホスト側になって指定管理者と一緒に新しい来園者を迎える、そういった循環が定着し始めました。

2022 年、パークミュージアム 894 はパークフェスト 894 へ名称を変更して実行委員会を立ち上げ、2021 年度

4. 大切にしていること

私たちは西園のデザインやコンセプト、来園者ニーズを重視して維持管理運営をしてきました。

イベントの運営がスムーズにいくよう、景観にマッチした掲示板や案内板の整備やベンチやテーブルなどの配置、夜は暗くなるためライトの増設、普段立ち入り禁止の場所を休憩スペースとして開放するなどの取り組みを行っています。建物周りは雑木林と芝生の管理を重点的にを行い、目を楽しませる花の補植を行っています。農園側は畑が広がる里山の四季折々の風景をつくるため、刈り残しや選択除草、ササ刈りなどを行っています。



四季折々の表情を魅せる西園

このように働いている指定管理者のスタッフが「西園らしさ」の心意気をもつことで、イベントの作り方や市民の巻き込み方が違っていきます。地域に親しまれる公園とは、遊びに来た方々が楽しむことも勿論ですが、地域と一緒に空間を作り、管理者と一緒にこの公園で楽しませたい・心地よい空間をつくりたいという気持ちを醸成することなのではないかと思います。

1. はじめに

弊社は平成21年度より、富山県空港スポーツ緑地の指定管理者として、「笑顔と活気を発信する地域のコミュニティステーション」をテーマに掲げ、公園や地域全体の活性化だけでなく、地域課題の解決に寄与できる活動を推進している。多様性や社会的弱者を尊重する社会的背景のもと、公共施設である公園が率先して、共生社会の構築を推進すべきだと考え、様々な取り組みを実践している。

2. 障害者就労支援

(1) 障害者雇用の推進

公園維持管理作業員として、中度知的障害や発達障害を持つ2名を雇用している。当初はコミュニケーションの図り方、作業効率等で課題があった。そこで指揮命令者がジョブコーチ（企業在籍型職場適応援助者）の資格を取得し、作業の切り出し、適正配置を行うことで技能取得に繋がった。

視野が狭くなりがちな方は、芝刈では作業範囲が明確な場所を選定し、細かな作業を得意とする方には、剪定作業の補佐を行う等の



役割分担を明確にしている。障害を持つ方と一緒に働くことで、他の作業員も障害理解を深めるとともに、作業工程の最適化や効率化を重視する意識改革の向上に繋がった。

(2) 実習訓練と職場体験の提供

平成21年より就労継続支援B型事業所と協働し、週1回の除草や清掃等の軽作業を実施している。社会的自立や生活環境の改善を図ることが目的である。平成28年からは就労移行支援事業所と協働し、週1回の施設外実習（企業内訓練）を行っている。労働への意欲を高め、就労に必要な知識と技能の習得により一般就労を目指している。

(3) トイレ清掃の業務委託

平成31年より就労継続支援A型・B型事業所にトイレ清掃を委託し、就労の場を提供している。清掃マニュアルは障害特性に配慮したものとし、業務の実効性を確保している。

3. 園芸福祉と地域コミュニティの創出

平成30年より生活介護・就労継続支援B型事業所と協働で花壇管理を行い、会話や笑顔の絶えない活動を目指して

いる。綺麗な花や感触を楽しめる葉、匂いのする草花等は、コミュニケーションを苦手とする方との会話の糸口になり、また園内の活動が、来園する地域住民との交流の機会を創出している。



4. イベント事業を介した障害児支援

公園内の夏まつりイベントを平成30年より障害児通所支援事業所と協働して実施しており、児童が接客や料金徴収等の就労を体験するとともに、地域住民との交流を図っている。

令和元年より県内の障害児通所支援事業所と連携し、普通学級では実施困難な障害や特性に配慮した運動会を開催している。議員や大学教員、支援者等で構成した実行委員会（事務局は公園管理事務所）で運営し、児童の健全な育成と地域の幅広い支援体制の構築を目指している。

5. インクルーシブパークへの取り組み

障害の有無や年齢等を問わず誰もが一緒に遊べるインクルーシブ遊具の導入が、全国的に推進されている。弊社の提案がきっかけとなり、令和3年に富山県が遊具の試行設置を実施した。県民の



ニーズや安全性等の把握、導入に向けた検証を行い、令和4年の本格的な設置が決定した。地域住民や教育福祉関係者からは、公園からインクルーシブ教育の概念が普及することや多様な児童の交流が発展することを期待されている。

6. 都市公園と障害者福祉の可能性

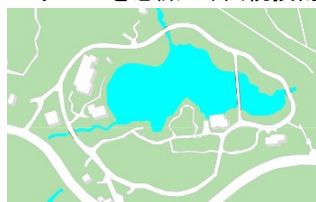
近年、全国各地で農福連携を推進しているが、「公園×障害者福祉」や「造園業×障害者福祉」の取り組みは事例が少ない。公園の価値を高め、今後の新しい連携手法として、全国的な展開を期待したい。

共生社会の実現に向け、障害者と健常者との垣根をなくさなくてはならない。ただ公園施設のバリアフリー化等によるアクセシビリティの改善だけでは、その実現は難しい。施設だけが先行するのではなく、全ての方が相互理解を深め、積極的に支えあう「心のバリアフリー」が伴ってこそ、真のインクルーシブパークになると考えている。

1. 工事概要

国営昭和記念公園は、東京都立川市・昭島市に位置する国営公園である。1997年に開園した日本庭園では、日本の自然観を凝縮させた池泉回遊式庭園と日本建築建築が楽しめる。一方、開園から年月が経ち施設の老朽化が進んでおり、本工事にて日本庭園の数寄屋建築「欽楓亭」と盆栽展示施設「盆栽苑」の改修を行った。

本工事は日本庭園の工事ということを意識し、伝統技術を活用した庭園と調和した施工、および公園施設や利用者への影響を最小限に抑える施工を目指した。



2. 左官技術の活用

①荒木田土間舗装（盆栽苑、讀樹亭）

荒木田土間は「土」「消石灰」「にがり」の3種の自然素材を原料とした伝統的な三和土（たたき）土間である。

伝統工法の再現と既存建築の保存のため人力施工を行った。また撤去材を下地に再利用することで廃棄による環境負荷とコスト低減をはかった。敷均した材料を木の板を用いて人力にて叩いて締固め、金鏝で灰汁を出し、左官仕上げにて表面を滑らかに仕上げた。

自然材料で十分な品質を確保するため、試験施工を行い配合・施工方法を工夫することで品質向上をはかった。乾燥収縮の抑制のため山砂とビリ砂利を混ぜ込み、既設部との活着向上にラス網を敷設した。



②聚楽土壁（欽楓亭）

主原料の聚楽土は希少土であり、撤去材を下塗り材として再利用し採掘・廃棄による環境負荷とコストを低減した。

土壁は自然材料のみで仕上げるため、施工・養生時の乾燥に注意し品質管理に努めた。公園管理者の協力を得て、施工後2週間はエアコンの使用を停止、その後も最小限の使用とすることで、十分な養生期間と品質が確保できた。

③竹繊維舗装

人力施工で一日の施工量が想定しにいたため、小袋で搬入し使用する必要量だけを攪拌した。その結果、余剰材料が硬化し無駄になることがなく廃棄物削減につながった。

3. 現場環境・周辺景観を意識した施工

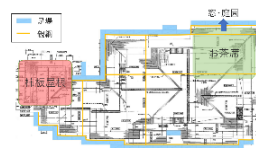
①安全対策

屋根作業時の安全対策として足場に親綱を張り、建物を傷めずに墜落制止用器具を使用できるよう工夫した。また冬季は凍結で屋根の上が滑りやすいため、毎朝注意喚起を行い、凍結する時間帯は屋根には登らず足場の上から作業を行うことで転倒・転落事故防止に努めた。

②環境・景観への配慮

当初計画では建物の外周に全工事期間中足場を設置する予定だったが、複数回に分けて足場組立を行い、足場設置期間を短縮した。また庭園への影響を配慮し石段・景石等の付近は避けて施工した。

また公園管理者からお茶席の眺望を確保したいという要望があった。そこで工程を調整しお茶席付近の足場作業を集中して行い、足場設置期間75日間のうち、お茶席前の設置期間を17日に短縮した。



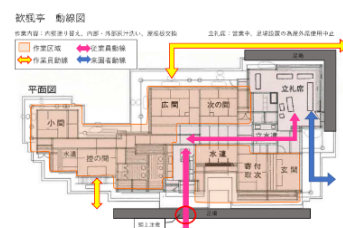
4. 公園利用者・管理者に対する配慮

①環境調査（設計照査）

本工事の設計図面は建築当初（25年前）のものを利用しており、現況が十分反映されていなかった。着手前に現況調査を実施し、設備等の仕様・形状を図面に落とす事で、設計者、監理者との打ち合わせを円滑に進めるとともに、施工時の手待ち、手戻りを防止することができた。

②搬出入・公園関係者動線の分離

欽楓亭は公園管理者の出入りが多く、工事作業員と公園管理者・利用者の接触事故を防ぐため作業動線の分離を計画した。また、お茶席の営業中は館内の公園管理者の通行が多くなるため、公園管理者の動線となるエントランス・廊下部分の施工を先行して行うことで、公園管理者動線と作業区域の分離を図った。



浜離宮恩賜庭園における江戸時代の庭園景色復元に向けた修景整備工事

渡邊 美央、益野 洋一、山中 啓史、加藤 岳大、磯部 紗江（株富士植木）

1. はじめに

本工事は、浜離宮恩賜庭園において庭園の見所である「大泉水」周辺の修景整備工事である。本庭園の歴史は古く18世紀初頭11代将軍家斉の時代に完成したと言われている。幾度の災害により建造物等が損傷したが、近年の復元工事によって当時の景色を再現する試みが行われている。

本工事は、これら復元工事の一環として当時の資料等を基に行われた。有識者の先生方や中央区教育委員会の方にもご指導いただき、樹種の選択、樹木の配置、形状等の協議を行いながら植栽の復元工事を進めた。本庭園は特別史跡・特別名勝であることから、施工条件として①20cm以上の掘削の際には遺構調査が必要であること。②景観や来場者に配慮した施工方法であること。以上を留意して作業を進めなければならなかった。



参考絵図「浜御庭園（模写）」1842年 狩野雅信（模写）

2. 伐採工

資料によると、江戸時代の景色は、芝とマツが主体であった。現在は、明治～大正にかけて植えられたスダジイ、タブノキ、モミジ等が混在している。伐採するにあたり、事前に現地で



有識者の方との現地確認状況

有識者の先生方からご意見を伺い、園路からの眺望を妨げる樹木や建造物を阻害している樹木について協議を重ね、伐採木を決定した。



山の稜線を阻害するハゼノキ → 伐採後、山の姿を確認できる

3. 植栽工

3-1 遺構調査

前述の通り、20cm以上の掘削の際は事前に遺構調査が必要であった。高木1本につき深さ75cm、幅口140cmの植穴掘削する設計であり、スコップや移植ゴテ等を用いて慎重に掘り進めた。遺物が発掘された際は、随時中央区教育委員会に報告し、保存の場合は植穴をずらして拡張掘削する必要があった。調査の結果、御茶屋周辺で多くの遺物が発掘され、陶器や排水路のような遺構も確認された。また、近年の復元工事の際に盛土した荒木田土の層も確認できた。（参照写真1）



参照写真1 御茶屋周辺の遺構



中央区教育委員会による確認状況

3-2 材料・植付け

伐採と同様に植付けの配置や樹木の形状についても有識者の先生方のご意見を参考に協議を重ねた。特にウメについては設計者の強い要望があり、①小ぶり②年始頃に花が咲く③芳香がある、という条件であった。関東圏内で探した結果、寒紅梅（赤）、冬至梅（白）、緑がく梅（白・枝垂れ）の3品種に決定した。

植付けの際には、発注者・設計者立会のもと、樹木の向きや傾きを確認しながら植付けを行った。



植付け状況

4. 景観や来場者に配慮した工夫

本工事は約1年という長期間であったため、施工中のバリエードにはよしで目隠しをし、イメージアップ効果として工事で出た廃材等を使い日本の結び文化を紹介する飾りを作成した。



吾妻の大自然で、一年間に及ぶ森林復旧作業

堀金 哲也、小川 雄一、杉村 泰、阿部 晃治、晝間 晴喜（株山梅）

1. はじめに（工事概要）

当工事では、ハッ場ダム建設に伴い、建設に必要な砕石資材調達のために切り崩された山間部（標高約 900m、面積約 12,000m²）に森林復旧を行う工事である。ダム建設直後、一度、植樹されたものの、そのほとんどが衰弱・枯死していたことから、国土交通省より相談があり施工に至った。原因究明から設計施工を、発注者と検討を重ね、一年間に及ぶ復旧作業となった。



2. 原因調査究明

（1）施工当初の状況

当初植樹された樹種はコナラ・ミズナラの2種で、規格は樹高 1.0m、数は約 3,000 本。施工は 10～11 月の秋季で、材料の大半は温暖地域から集められていた。

（2）植生環境調査（植生管理士）

（一社）日本植木協会の植生調査委員会協力のもと、植生管理士の資格保有者とともに現場調査を実施。枯死木の発根状況からは、大部分が根付く前に枯死したと推測された。温暖地域で生育した苗を休眠に入る前に寒冷地に植樹した為、越冬できず枯死したと考えられる。また、越冬できたものも、衰弱状態であった。



（3）植栽基盤調査（植栽基盤診断士）

植栽基盤調査を行ったところ、土性は埴土であるが、地中には固結層（軟岩層）が確認され、現場透水試験結果は「不良」であった。排水不良による根腐れなどが生育に支障をきたしたことが考えられた。

（4）動物調査

苗木は、複数個体で枝が途中で千切られたような跡があり、シカによる食害を疑った。森林管理署が行った動物調査を確認したところ、シカの生息が確認できた。

3. 再整備方法の検討

（1）施工時期の検討と苗木の材料調達方法

施工時期は 4～6 月の春季に行うことが良いと判断した。苗の数は約 3,000 本と大量で、温暖地域からの収集も必要であった為、現場環境に近い圃場（長野県安曇野市）を定め、施工 1 ヶ月前には圃場に集め、類似環境に慣れさせる対策をとった。

（2）モックアップによる植栽基盤改良の検証

現場採取土と各種改良資材の配合比率を変え、12 検体を用いて透水性改良を検証。結果、現場土に対し、黒曜石パーライトを 10%、バーク堆肥を 10% ずつ混ぜる案が、コスト・工期の点も、適していると判断した。また、現場地中には軟岩層があり、浸透した地下水の排水確保の為、暗渠排水の設置を検討した。



（3）シカの食害対策

シカの食害から苗木を守る為、害獣侵入防止柵の設置検討をした。柵の形状や材質も考慮し、安価で使用後の処分が容易な樹脂ネットも検討したが、シカの角が絡まり、死に至らせる可能性もあった為、材料コストはかかるものの、亜鉛メッキ製のものを採用した。

4. 施工

（1）土壌改良

土壌改良をより均一に確実なものとするため、現場に 10m 四方の四角を描き、100m² 毎に改良材を量って施工した。検討した暗渠排水管についても全体に行き渡るよう敷設した。品質管理として、施工前後で土壌断面が均一に攪拌されているかの目視確認、施工後の透水試験により、透水性の改良結果の確認を実施しながら施工した。



（2）植樹

コナラ・ミズナラを主に採用したが、今後の継続した森林復旧の為、その他 13 種の苗木を試験施工として植樹。今後の生育を確認し、この地に適した樹種を見定められるように行った。

（3）害獣侵入防止柵

植栽範囲全体を囲うように、亜鉛メッキ製の侵入防止柵を施工した。柵は 2m の高さとするほか、地上部を折り返し、地中からの侵入防止も行った。

さいごに

植樹完了後、現在は国土交通省にて維持管理を行っている。夏季をはさむ為、灌水は念入りに行ってもらい、約半年経過した現在も順調に生育をしている。





一造会は、国家資格「1級造園施工管理技士」資格取得者を正会員とする全国組織で、より良い環境の創出・保全を目指し、市民交流や技術の向上、知識の習得を図っています。

【一造会賛助会員】アゴラ造園(株)、飯島興産(株)、(株)石勝エクステリア、入交コーポレーション(株)、内山緑地建設(株)、(株)苑友造園、オーセブン(株)、大貫石材工業(株)、加勢造園(株)、(株)桂造園、(有)岨農園、ゲンゼグリーン(株)、(株)サイニチ、(株)椎橋商店、(株)CSS 技術開発、(株)昭和造園、住友林業緑化(株)、西武造園(株)、造園施工管理技術研究協会、(株)ダイショーフォレスト、(株)タカショー、(株)高橋植木、(有)ツリークライミングワールド、東武緑地(株)、(株)中村製作所、日日石材(株)、フォレストガーデン、(株)富士植木、(株)ブリッジ、北部緑地(株)、草屋舎、(株)丸山製作所、NPO 緑の大地会、(株)柳島寿々喜園、(株)山梅、(株)ライフ計画事務所、(株)ランド【賛助会員随時募集中】

一造会の詳細は下記をご覧ください



ホームページ



FaceBook